
○【資料1】「湖南市庁舎整備計画について」の意見や質問など

(1) 石部宿の町並みを想起させる外観ということで「漆喰の白壁」「木格子」などを庁舎にあしらう設計ですが来庁者の方が気が付かれるようにエントランスにそれなりの解説ボードの設置。

(2) 建物の外観は

①国道側の外観に石部宿のモチーフを取り入れたというがさほどインパクトがない。石部宿の町家の構成部分を取り入れたにしてもファサードとしては弱いのではないか。京都の町家に似ている程度のイメージでは。多分、モニュメントや解説版で補うほうが主力となるか？栗東駅の三角大屋根も「源平布引滝」九郎助館を模したというが、駐車場のモニュメントと解説版がないとなかなかわからない。とはいえてそこから地域の歴史に誘導してくれるのは嬉しい。

<（1）（2）の回答>

解説ボードの設置など来庁者に意匠性を伝えることができるよう対応を検討します。

(3) 広場（臨時駐車場）は通常は皆さまの発表又は休憩（イベントなど）の場として開放していただきたい。自動販売機（飲み物、クッキーなど）とベンチ、テーブルを設置していただきたい。

(4) 樹木など緑だけでは色として寂しいので紅葉する木（桜など）を一部に植樹していただきたい。

< (3) (4) の回答 >

広場（臨時駐車場）はご意見のとおり平常時は市民に開放する予定です。新庁舎整備コンセプト「自然とひとだまりができ、交流が生まれる新庁舎」の実現に向け、必要な設備や植樹などの設置を幅広く検討します。

(5) 災害時に市役所は避難所になると思いますが停電になるととても困るので自家発電装置を設置していただきたい。

(5) の回答

ご意見のとおり自家発電装置を設置します。

(6) 南側の外観も知りたい

(6) の回答

「資料1」の7ページをご覧ください。

(7) 家棟川が旧東海道を流れていたこと、上流にはマンポがあったこと、野洲川にそそぐことなどから東海道と野洲川の歴史に誘引するプロムナードにしてほしい。

(7) の回答

県道側は、かつての旧東海道石部宿を彷彿とさせる趣あるデザインとしており、資料P3に示すように、県道から文化ゾーンへと誘う旧東海道を想起させるプロムナードは、正面玄関のウツクシマツキャノピーをくぐり、西側の家棟川へと続くもう一つのプロムナードと呼応しながら、時を超えて新旧の文化が出会い、響き合うような空間を形づくっています。

(8) 環境配慮計画

ZEB を配慮すれば屋根の形状はおのずと陸屋根になるのでしょうか、デザインに一工夫できないものかと思います

(8) の回答

コンパクトな庁舎として、屋上に室外機置場として効果的に利用するために
陸屋根としています。また、構造への影響があるため、形状変更はできません
が、目隠しルーバー等の色彩に配慮し、木々の緑との調和に配慮します。

【その他意見】

◇旧国道に面して庁舎が建設されるのは、

①湖南市のシンボルとして効果的。

②駅からの利便性が向上することにより、草津線利用の増加が期待される。車
利用でもアクセスが分かりやすい。